

日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会 水化学管理分科会  
第14回 HWC標準作業会 議事録

1. 日 時 : 平成24年8月1日(水) 14:00~16:00
2. 場 所 : 日本原子力発電(株) 本店 2階 第3会議室
3. 出席者 : (敬称略)  
(委員) 内田、高木、和田、小野、小藪、藤原(太田代理)、寺門、久宗  
(常時参加者) 北島、山本、太田、塙、上山
4. 配布資料 :
  - 14-1 第13回 HWC標準作業会 議事録(案)
  - 14-2 HWC標準として規定する事項の検討(東芝資料)
  - 14-3 HWC標準として規定する事項の検討(日立資料)
5. 議事概要 :
  - (1) 出席者の確認  
出席者の確認を行い、委員8名中8名出席しており、必要な定足数を満足していることを確認した。
  - (2) 前回議事録確認  
久宗幹事より、資料14-1「第13回 HWC標準作業会 議事録(案)」の説明があり原案どおり承認された。
  - (3) V&V法による検証  
内田主査より、原子力学会におけるV&V法等のソフトウェアの標準化の検討状況について、考え方のみを標準化することとしており、各論については各分科会で検証する方向で進んでいるとの情報提供があった。  
このため、HWCに係る炉内環境緩和(ラジオリシス&ECP)については、ベンチマーク結果を論文として学会誌に投稿し、HWCで引用することとし、この進め方について水化学管理分科会に提案~承認を得る必要がある。
  - (4) HWC標準として規定する事項  
HWC標準として、BWR炉内環境緩和効果を評価する「手順の標準化」を規定することとした。  
また、プラントメーカーの所有するラジオリシスモデルやECPモデルやデータセット等について評価の妥当性を論文として学会誌に投稿し証明することにより「手順の標準化」が可能と考える。  
但し、計算モデルやデータセットについては妥当性を検証したバージョンを明確化しておく必要がある。
  - (5) 今後の進め方  
HWC標準として規定する事項を確認したため、HWC標準原案の目次を再検討し、本文・付属書・解説書の構成を検討する。

以上